

日高初 浦河「森のようちえん」



三角形に組み合わせた道産木材の柱が並ぶ「森のようちえん」開舎＝3月23日

胆振初 白老「マザーズ+」



胆振管内で唯一登録された白老町の「マザーズ+ (プラス)」

道産材PR制度に2施設 道が登録 知名度向上に期待

【浦河、白老】道産木材を活用した建築物が対象の道の制度「ホッカイドウ ウッド ビルディング」に、浦河町の幼保連携型認定こども園「浦河フレンド森のようちえん」（東町かしわ）が日高管内で初めて登録された。胆振管内では、白老町の養鶏業北海道種鶏農場の物販店舗「マザーズ+（プラス）」（社台）が唯一登録され、それぞれ注目されている。

（和田樹、竹田菜七）

同制度は、道産木材の利用拡大と道産木材製品の魅力の発信を目的に、道が昨年10月から始めた。道内で2019年4月以降に完成した建物（住宅を除く）で、構造材や内装材、外装材に道産材を使用しているなどの基準があり、現在25棟が登録されている。

同園は今年4月に開園した。園舎は三角形に組み合わせた木の柱で建物を支える「立体トラス構造」で、柱は道産カラマツ、フローリングは道産のナラやカバ、クルミを使用。7月1日付で登録を受けた。

振興局の生田泰振興局長から木製の登録証を受け取った同園の伊原鎮園長は「日高管内で第一号の登録はうれしく、知名度の向上が期待できる。建設に関わった人や林業関係者に感謝します」と話していた。

同園は、独創的で北海道にふさわしい建築を表彰する日本建築学会道支部の本年度の北海道建築賞も今年2日付で受賞した。

「マザーズ+」は2020年9月に完成。道産のカラマツやトドマツの木材を使い、木のぬくもりが感じられるデザインとなっている。20年度の木材利用優良施設コンクールでは、農林

水産大臣賞に選ばれるなど数々の賞に輝いてきた。

「ホッカイドウ ウッドビルディング」には今年2月に登録された。川上一弘社長（62）は「多くの賞をいただけて光栄に思う。木の温かさを室内から見える周囲の自然を楽しんでほしい」としている。